

2019年度の友の会活動について



友の会総会の様子

4月28日(日)に友の会総会を開催し、2018年度の事業報告、2019年度の事業計画案及び予算案を審議しました。講座については、今まで実施してきた30以上の講座に加え、今年度は8月に小田原地下街「ハルネ」でのよろずスタジオ出張ワークショップを実施します。

友の会の皆さまには、ぜひ興味あるグループの講座へ参加したり、また講座を自ら企画するなどして、友の会を通して自然を楽しんでいただきたいと思います。

目次

グループ別報告	2
— 事務局より	
— 情報クリップ	
— 企画部より (各グループからの活動報告)	
博物館NOW	5
行事案内	6

事務局より

ミューズフェスタ 2019 友の会コーナー

3月16日(土)、3月17日(日)の友の会コーナーで恒例の「きのこのスタンプ」に参加された方は、おおよそ350名と260名でした。今年は会場が変わり、2階図書室前の広場になりました。

ここは、人の流れがよかったためか、例年より多くの方のワークショップへの参加があり、また、その場で友の会への参加を表明して下さった方も数名いらっしゃいました。

もう一つ、この場所がよかったのは、この一画が常設の「友の会通信」大型版の展示コーナーになっていた事と、今回は特別に「ミニ企画展示コーナー」を友の会の活動紹介の場として、博物館より使用可の提示があり、3月2日(土)より連休最終日の6月6日(木)まで利用が出来たことです。この展示に当たっては、友の会活動グループの8団体より、力作の活動紹介ポスターがそれぞれ寄せられ、また活動成果の作品など実物展示も見られ、ミューズフェスタ 2019 友の会コーナーでの活動紹介のとてもよい資料となりました。

今年もたくさんの家族連れに来て頂き、小さなお子さんも「きのこのスタンプ」を楽しみました。また、来年もこの場を借りて、友の会の紹介をしたいと考えています。(飯島俊幸)



情報クリップ

友の会会員数:391名(5月1日現在)
正会員:390名／賛助会員:1名

●博物館人事異動(平成31年4月1日付)

＜学芸部＞

異動:田口 公則(前企画普及課)
渡辺 恭平(前情報資料課)
再任用:瀬能 宏(前学芸部長)
新規採用:石田 祐子(植物担当)
西澤 文勝(火山地質担当)

＜学習指導員＞

新規採用:森泉 誠司
柚原 章

＜企画情報部 企画普及課＞

異動:荻部 治紀(学芸部)
松本 涼子(学芸部)

＜企画情報部 情報資料課＞

異動:鈴木 聡(学芸部)
新規採用:佐藤 恵

＜管理課＞

新規採用:井川 博文

●退職(平成31年3月31日付)

勝山 輝男(企画普及課／植物担当)
笠間 友博(学芸部／火山地質担当)
高橋 綾子(学習指導員)
山田 茂弘(学習指導員)
加藤 恵美(情報資料課)
村尾 昌昭(管理課長)
清田 哲(管理課)

※6月1日付の人事異動情報は、
次号(9月15日発行)掲載予定です。

●2019年度 友の会担当職員のご紹介

企画普及課長:佐藤 武宏
学芸部:樽 創(新任)
渡辺 恭平(新任)
企画普及課:本杉 弥生(友の会総合窓口)

活動報告（植物グループ）

◆植物観察会「狭山丘陵の春をたずねて」

2019年4月23日（火）/武蔵村山市 /22名

講師：田中徳久学芸員/担当：植物グループ

八高線「箱根ヶ崎」駅からのバス「岸」停留所から徒歩10分ほどで、新緑をまとった丘陵地が現れた。樹林地に近づく、頭上にはウワミズザクラが満開。足元には、セリバヒエンソウ、ムラサキサギゴケ、カキドオシが満開。



これでもサクラです。ウワミズザクラ

配布資料に「ガマズミの仲間を見分けてみよう」とある。オトコヨウゾメ、ガマズミ、コバノガマズミ、ミヤマガマズミの特徴、見極め点が図解されている。葉の形、腺点、毛など、ルーペで確かめなければならぬものが多いが、一番分かりやすいのは、オトコヨウゾメは花数が少なく、長い花柄で横向きに咲くこと。道々ガマズミの仲間が現れる。「ガマズミ」の葉の手触りが柔らかいことが意外だった。

茂みの奥でヤマツツジのオレンジ色が目立つ。足元には、カンアオイの葉、オオバノトンボソウの葉が出てきているので気を付けよう。あまり見ることのないタチシオデに蕾。

明るい林、放置され遷移の進んだ暗い森、ササの間の道、田んぼ脇、湿地等、多様な環境を上手に配置した素晴らしい自然が、都市の近くに残っていることに感動した一日だった。（相模原：西田和子）

活動報告（地学グループ）

『ー1300 頁余の地学巡検資料から見たー

友の会地学グループ 20 年の足跡』

2019年3月27日（水）/博物館西講義室/

参加者：23人/蛭子貞二氏（友の会）

当日は講師の蛭子さんご夫婦の結婚50年の記念日、金婚式を地話懇の講師として当博物館で迎えられることになった。おめでとうございます。

蛭子さんとは友の会発足時の地学担当で、それ以来のお付き合い。友の会行事の前半は私も携わっていたので懐かしい思いで蛭子さんの話に耳を傾けていた。

巡検で現地に立つ度に非常に興味をそそられていたことを思い出していた。特に印象深いのは宿泊巡検で館での予習、現地での実習、帰宅後の各自に定められた事項のまとめ、そして報告会。活動の多さに驚くと共に資料を集大成されていることに感謝しています。（長山武夫）



今回まとめられた資料集
は博物館の地学・学芸員
室で閲覧できます

私は2014年の大鹿村中央構造線巡検が初参加でしたが、蛭子先生の車中での地形の説明により、今迄何となく見ていた風景が実は壮大なドラマの結果である事を気付かせてくれました。今回20年間の行事の見所&魅力を、開催時期を追い先生から解説していただき、改めて行事が神奈川県内の地形・地学の代表地の一覧表となっており、もっと早くから参加しておけば良かったと残念にも思いました。

講座はゴーギャンの「我々はどこから来たか ～ どこへ行くのか」の美しい画面で締めくくられた一時間半でした。（飯嶋 晃）



蛭子貞二氏による地話懇話会風景

活動報告（よろずスタジオ）

「砂でお絵描き」

2019年1月20日（日）／博物館東側講義室／
184名（大人91名、子ども93名）／笠間学芸員／
スタッフ8名

地学ボランティア金曜日グループが担当している1月のよろずスタジオは、「砂とあそぼう」というテーマのものと合わせると2010年から続けて10回目となりました。今回は人気の「砂でお絵描き」を実施しました。神奈川県産の砂で稲村ヶ崎（砂鉄に富む黒い砂）と中津川（緑色凝灰岩の碎屑物に富む緑色の砂）、中川（花崗岩質岩石由来の白っぽい砂）真鶴岩海岸（赤色酸化された火山岩由来の赤っぽい砂）の4種類とサハラ砂漠の砂（風化酸化されたオレンジ色の砂）の5色を使って砂絵を制作してもらいました。

色画用紙にスティックのりで絵を描き、その上に好みの砂を上からパラパラとかけ、余分な砂をとると砂絵ができます。砂の粒子は同じ産地でもよく見るとそれぞれ違った色で、変化のある芸術的な絵になります。子どもも大人も真剣に絵を描き楽しんでいました。それぞれ力作で、ラミネートして持ち帰った砂絵は良い記念となり、自然の砂と親しんだ時間になったと思います。（金子早智子）



「セミの体を見てみよう！」

2019年2月17日（日）／博物館東側講義室／165名
（大人85名、子ども80名）／渡辺学芸員／スタッフ6名

昆虫分野では三年間チョウの体を取り上げてきましたので、今年はセミの体を見ることにしました。スタッフも気分新たにセミのパズルを作り、渡辺学芸員のミニ講義を受けて、当日に臨みました。

取り上げた主題は、「セミの口」「鳴き声はどうやって出すのか」「セミの一生」です。これらを3つのコーナーに分けて実体顕微鏡と共に設らえ、スタッフが付いてセミの標本を題材に、観察してもらいました。

木の汁を吸うための細い管の口、震わせる筋肉と共鳴箱に当たるお腹を、図と本物を見比べて顕微鏡下で観察。「セミの一生」のコーナーでは、樹皮の下に産み付けられた卵と幼虫の形も写真で紹介しました。土に潜るため前足が太くなっていることや、ひと冬樹皮の下で過ごして幼虫になる種類もいること、オスしか鳴くことができないのは、メスのお腹には卵が入っていて、響かせる場所がないからという事など、参加の皆さんには豆知識となりました。

加えてヒメハルゼミというセミは県内では数か所しか生息地がなく、たくさん見られる場所は博物館近くのお寺の森しかない、貴重なセミということも紹介しました。

アブラゼミ、クマゼミ、ニイニイゼミ、ミンミンゼミ、ヒグラシ、ツクツクホウシ、エゾゼミなど、神奈川県で身近なセミを並べた標本は、色や大きさを比べることができ、参加の皆さんも標本の価値を体感なさったのではないのでしょうか。

「よろずスタジオ実施日なので来ました」という来館者もちろほら聞かれ、スタッフには嬉しいことでした。（友の会 赤堀）



「アンモナイトのレプリカを作ろう」

2019年4月21日（日）／博物館東側講義室／85名
（大人36名、子ども49名）／田口学芸員／スタッフ7名

ここ数年恒例になりつつある「アンモナイトのレプリカづくり」、多くの方がアンモナイトのレプリカづくりを体験されました。

受付がすんだ参加者は材料のワンセットを受け取って席へ。スタッフの説明や手助けで、早速作業開始。レプリカづくりの最初のポイントは水の入れ方、ゆっくり石膏の粉になじませながら・・・そしてなじんだら素早くまんべんなくかき混ぜる、簡単そうで難しい。よくかき混ぜて型に流し込みトントンとトレイを上下させ、空気抜きをする。これで流し込み完了、石膏が固まるまで20～30分待ちます。

固まるまで待っている間に次の作業です。館内にあるアンモナイトの壁のアンモナイトさがし。田口先生の説明を聞いてカードを1枚持って、いざカードと同じアンモナイトさがしに出発。すぐ戻ってくる人もいれば、なかなか戻らない人もいます。

そろそろアンモナイトのレプリカも完成です。自分の番号の作品を探します。そして壊れないように気を付けて用意された袋に入れてお土産です。

何人かの参加者の作品が良く固まらず、再度挑戦、また再挑戦の時間の無い方には見本の作品を差し上げて、皆さん作品を持ち帰ることができました。スタッフもほっとしました。（よろずスタッフ 佐々木）



博物館NOW

「私と植物の付き合い方」

学芸員 石田祐子

今年4月に博物館に参りました石田と申します。維管束植物を担当しております。専門は、植物生態学・植生学で、これまでの研究では、亜高山～高山帯の植生や湿生草原の成立要因について調べたり、森がどのように世代交代をしているのかについて調べたりしてきました。また、近年は標本等も利用した植物目録の編纂にも携わりました。

私は、いろいろな場所に生えている植物のさまざまな生き様に興味を持ち、植物の世界へ入りました。例えば、写真の様に一見平らに見える場所でも微かな起伏、池塘や水の流れの近くか遠くかなど、ちょっとした立地の違いで異なる植生が成立していることがあります。それぞれの植物がどんな戦略を持ってそこに生育しているのかと考えるとワクワクしてきます。



湿生草原

手前の赤や黄色みがかかった所にはミズゴケやモウセンゴケなどが、奥の黄緑色の所にはイワショウブやニッコウキスゲなどが生育する群落が見られます。

現地で植物を観察することも好きですが、標本庫でじっくりと標本を見ることも好きです。また、植物を食べたり、蔓や草などを編んだりすることも好きです。これから、みなさんと植物について色々お話ができれば嬉しいです。どうぞよろしくお願いいたします。

爆発的噴火の証拠を追って

学芸員 西澤 文勝

友の会会員の皆様、はじめまして。本年度から地球環境担当の学芸員になりました西澤です。私はこれまで、南九州のカルデラ地域や伊豆諸島の神津島・新島、富士山といった火山を対象に“爆発的噴火”の歴史を調べてきました。火山の噴火には、大きく二つあります。一つは溶岩を流出する比較的静穏で非爆発的な噴火で、もう一つは火山灰や軽石・スコリアを噴出する爆発的な噴火です。火山灰や軽石などの爆発的な噴火によって生産された物質は“テフラ”と総称されます。溶岩もテフラも同じく火山噴出物ですが、私は後者の研究をしてきました。

爆発的噴火の歴史を調べるとは、その噴火がいつどこで起きたのか、そしてどんな噴火だったのかを出来事の順序に沿って明らかにするという事です。そのためには、爆発的な噴火の証拠であるテフラの地層について、それぞれの地層の積み重なるの順序を確認しながらできるだけ多くの地点で観察することが必要です。そして古いテフラの地層であるほど、その観察は制限され難しくなります。それは、歴史記録もないし、地下深くまで掘らなければ見えてこないし、削られて失われている場合もあるからです。これから取り組む箱根火山のテフラ研究にはこういった研究上の難しさもありますが、その爆発的な噴火の歴史について、先人たちの積み上げてきた知見に力を借りながら、楽しみながら、テフラを追いかけて歴史を明らかにできればと思っています。そして、その活動の中でみつけた面白さや不思議さについて、友の会の皆様とも共有することができればと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

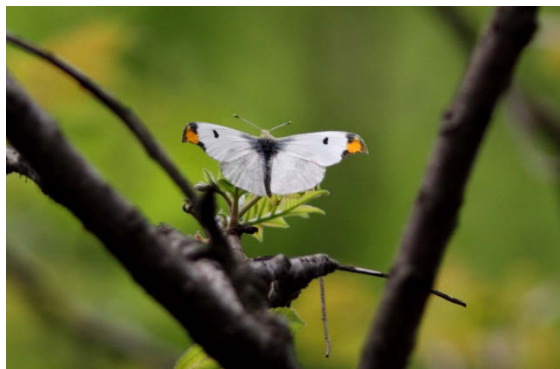


新島火山の完新世テフラの露頭

行事案内

◆ 大人の昆虫講座『チョウはベストドレッサー』

美しいチョウ達の姿はどうなっているのでしょうか。顕微鏡でそのドレスをかたどっている鱗粉の様子を観察しましょう。



ツマキチョウ

日時：8月20日（火）10：00～14：00

場所：博物館実習実験室

講師：渡辺恭平 当館学芸員

対象：大人 20名（多数抽選）

参加費：100円／人（資料代など）

締切り：8月6日（火）必着

担当：友の会 里山むしてくクラブ

連絡先：金子

*詳細は返信はがきでお知らせします。

◆ 「地話懇話会～地学関連分野の話題を皆で気軽に話し合う～」…第4水曜日／開催月

【8月度】

日時：8月28日（水）15：00～16：30

（質疑応答時間を含む）

場所：博物館西側講義室

対象：友の会々員（原則）の当日来館者

参加費：無料（原則）…但し内容により有料
（保険代、資料代等）

話題：『化学組成と同位体比からみた

大涌谷の地下環境』

話題提供者：板寺一洋 氏

（神奈川県温泉地学研究所・研究課長）

申込み：不要

*状況により話題（講座内容）等の変更があります。

連絡先（代行）：入江和夫

◆ 昆虫観察会

『そこにいたか・里山で楽しむムシ・むし・虫』

春に出会ったのとは違う虫たちに逢えるでしょうか。チョウやトンボ、甲虫は今回も数多く見られるでしょうか。バッタ類の姿が多いかもしれません。里山ならではの虫たちの様子を観察しましょう。



マユタテアカネ

日 時：9月11日（水）9：40～14：20

雨天中止

場 所：足柄上郡中井町

集 合：神奈中バス比奈窪バス停 9：40

小田急秦野駅南口2番バス停から神奈中
バス比奈窪行き終点下車

J R二宮駅南口1番バス停から神奈中バ
ス比奈窪行き終点下車

解 散：比奈窪バス停 14：20頃

講 師：渡辺恭平 当館学芸員

対 象：大人 20名（多数抽選）

参加費：400円／人

締切り：8月25日（日）必着

担 当：友の会 里山むしにくクラブ

連絡先：金子

*詳細は返信はがきでお知らせします。

◆ “よろずスタジオ”

対 象：どなたでも参加できます。

申込み：不要／オープン

参加費：無料

場 所：博物館1階東側講義室

「歯のひみつ～化石からわかること～」

歯は動物の体の中で最も硬く丈夫な部分です。だから化石となって残りやすいのです。歯をよく観察

するとその動物が何を食べていたのか、どんな種類なのかが分かります。レプリカを使ってその観察のコツを教えちゃいます。

日 時：9月15日（日）13：00～15：00

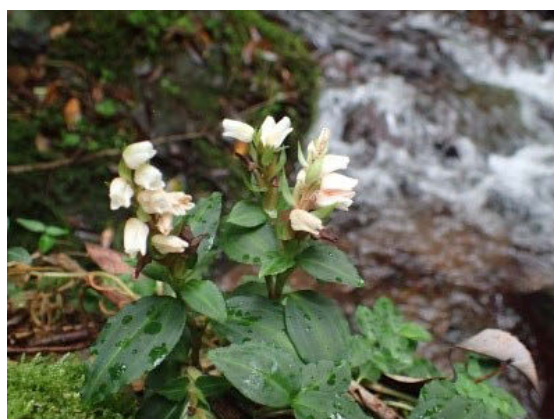
「巻貝の中を覗いてみよう！」

巻貝のスライスした標本をみて中がどうなっているか観察してみよう。観察した後はクレヨンで写し取って記念に持ち帰ろう！

日 時：10月20日（日）13：00～15：00

◆ 植物観察会『岩戸山の秋草を楽しむ』

可憐なアケボノシュスランが左右に咲く沢沿いの道、イズコゴメグサ、ソナレマツムシソウ、ウメバチソウなどが咲く草原と変化に富んだ楽しいコースです。



アケボノシュスラン

日 時：10月4日（金）9：00～15：00 雨天中止

場 所：岩戸山山麓（静岡県熱海市）

集 合：J R東海道線湯河原駅 改札口 9：00

（タクシーで日金山登山口まで行きます）

解 散：姫の沢公園 14：40頃

15：00 発 熱海駅行きバスに乗車

講 師：田中徳久学芸員

対 象：大人25名（応募者多数の場合抽選）

参加費：700円／人（人数により多少の変更あり）

（保険・資料・タクシー代等含む）

締切り：9月19日（木）必着

担 当：友の会植物グループ

連絡先：原田

金子

*詳細は返信はがきにてお知らせします。

友の会“よろずスタジオ”

いよいよ博物館を飛び出しま～す

この夏、よろずスタジオは小田原の地下街「ハルネ」に出張してワークショップを開きます

博物館、そして博物館友の会の存在を広く市民・県民の方に知っていただく絶好の機会でもあります。皆さんもお友達に宣伝をしていただき、応援にお出かけください。

日時：8月17日（土）13：00～15：00

18日（日）11：00～12：00

13：00～15：00

会場：小田原駅地下街「うめまる広場」

内容：①葉っぱの身元探し

②この足跡、だれのもの？

③パズルで昆虫とご対面

助っ人募集！

こんな企画が持ち上がりましたがスタッフが足りません。ぜひ皆さんお手をお貸しください、協力してくださる方、また興味のある方、ご連絡をお待ちしています。



よろずスタジオの様子

友の会主催行事の参加申し込みについて

往復はがきに必要事項を記入して、友の会事務局までお送りください。FAXや電子メールでの受付は原則出来ませんので、ご注意ください（講座によっては可）。ご不明な点は友の会事務局へお問い合わせください。

■必要事項：行事名／開催日／参加者全員の氏名・年齢（学年）／会員番号／代表者の住所・電話番号／指定事項

注意！

■参加費は友の会会員1名分の金額で、内訳は資料代、傷害保険料です。それ以外のものは特記事項に記載があります。バスなど予約が必要な場合、参加者個々に材料を購入する場合などの講座参加確定後のキャンセルは、代わりの方をご紹介いただくか、参加費を負担していただく場合があります。

■オープンの行事は会員以外の方も参加できます（参加費が会員とは異なる場合があります）。

■小学生以下の参加は保護者同伴が原則です。

■チラシの発行されない行事もありますので、直接く連絡先へお問い合わせください。

■持ち物など詳細は返信はがきに記載されます。

ー広報部よりー

2018年度より通信の編集作業は外注から広報担当者が行うこととなりました。編集作業や新規企画提案など通信作成のお手伝いをしていただけると非常に助かります。お手伝いいただける方は、下記メールアドレスにご連絡ください。よろしくお願いします！

次号は、2019年9月15日発行予定です。

発行：神奈川県立生命の星・地球博物館友の会
Vol.23、No.1、通巻104号 2019.6.15発行

編集：友の会広報部

〒250-0031 神奈川県小田原市入生田 499

TEL：0465-21-1515 FAX：0465-23-8846

E-mail：kpmtomo@ybb.ne.jp

Blog：<http://blog.livedoor.jp/kpmtomo>

Twitter：@kpmtomo